

みんなで踏み出す第1歩！

仲間づくり推進副本部長 水野 秧一郎

5月7日、水野・伊達は江戸崎、新利根、利根町、藤代に新しい仲間を迎え入れるべく出立した。

江戸崎では、理事の山口清吉さん（稲敷市議）を訪ねました。1000名の会員維持というのも昨今では大変な事。今回は県大会までに100名増やすことをみんなで決意した事を率直に話した。「わかった」と3名の対象者を出してくれ働きかけてくれると約束してくれました。

新利根では、農民運動・母親運動などで頑張っておられる岡野千恵子さんが入会してくれました。対象者も4名ほど挙がり、水野と協力して当たることに快く引き受けてくれました。「原発事故、農業問題、母親運動、そして平和運動とみんな大切だけど新利根には仲間が少ないのよ。だけど私たちが頑張らなくちゃダメなのよね」と、と反対に励まされてきました。

利根町では、日本平和委員会に直属に入っている高木博文さん（利根町議）が茨城に転入してくれ、水野と4～5名対象者を

各地ですすむ仲間づくり

出し合い入会をすすめる段取りをしました。労働運動に身をおいてこられた高木さんは平和運動の大切さも充分理解されていて「今すぐとはいかないがこの地域でも平和の組織をつくりたい」と展望・決意の一端を示してくれました。

取手では、3月1日に事務局会議（4名）で8名の対象者を出し3月中に入会してもらうことを決めましたが、「地震」で中止になってしまいました。しかし、8日に染谷道子さんから「直ちに実行します」電話連絡がはいりました。

帰りがけ藤代の県南農民組合と産直センターにより、杉山恵子さん、戸部静子さんに会えることができ、ふじしろ平和の会でも頑張ってもらいたいと要請しました。

翌日、事務所につくばみらい平和の会の芦田洋治さんから電話で「1名増やしたよ」とうれしい連絡がありました。

また、鹿行平和委員会では4月26日に事務局会議（6名参加）して開かれ、「鹿行も地震被害で大変だけど、みんなで頑張ろう」と5名の対象者を出し合い5月中に成果をあげる決意を

しました。

内原・友部平和の会でも地震災害で中断していた事務局会議（8名参加）を5月6日に開き、事務局長がお寺の住職さん、市長さん、大学の先生などにすすめる先頭に立ちみんなで6名の名前をあげ5月中にあたることを申し合わせました。

○各平和の会には「しおり」、「入会のお誘い」、「入会申込書」の3点セットが届いていると思います。いま、事務局ではさらに一般向けの宣伝チラシを作成しています。平和の会の宣伝と仲間づくりに大いに活用してください。地震災害という突発的なことが起こり、仲間づくりの運動に影響もありますが、みんなで平和の底力を発揮しましょう。そして6月11日の県大会を成功させるよう奮闘しましょう。

意気高く！諸団体水戸駅で訴え！

5.3宣伝行動

5月3日、午後12時から4時までの2時間、58名（届け出があった人数）、30団体の参加で、意気高く震災支援募金、憲法擁護を訴えました。憲法フェスティバルが東日本大震災の影響で取りやめとなり、それに変わる取り組みでした。

各地の平和の会・平和委員会の皆さんは、お忙しい中でしたが、23名もの参加がありました。代表理事の水野さんがリレートークを担当し、前後2回、道行く市民に訴えました。

鹿行平和委員会の星野さんは、大きなサツマイモ（ベニアズマ）100kg余を支援し、会場で販売しました。多くの人の協力で芋の収入が11,514円にあり、全額を義援金にカンパしました。芋の販売代金を含め、2時間で52,129円の義援金が集まりました。

義援金は、各団体や賛同者の分を集計し、総額557,129円を連休明けの6日に茨城新聞社に届けました。



参加団体それぞれが、復興支援取り組みや、憲法を守り・活かすという日頃の活動や思いを、リレートークの形で市民に語りました。また、1,500枚のチラシ、1,000個の宣伝テッシュを配布しました。



食糧と農業と平和を考える出会いのイベント

第18回 いざ・田植え

5月22日（日）午前10時～午後3時ごろ（雨天決行）

自衛隊百里基地（茨城空港）に隣接する平和農園で田植えをしてから、百里公民館で昼食交流会

参加費は1000円（10歳未満は年齢×100円）

♪ヒューマン・ファーマーズのコンサートも

♪汚れてもいい服装で来てください

♪マイ食器持参歓迎

主催：一緒に作ろう！「日本のお米」実行委員会

連絡先：茨城農民連029-292-8732（担当：村田）

♪石岡駅への送迎希望の方、ご連絡ください

平和新聞

2011年5月5日・5月15日合併号

1956号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9平和会館
（郵送料月額120円）電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 594 合併号

2011.5/5-5/15

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

東日本大地震・特集

被災地のふるさとを訪ねて



北茨城平和の会 藤田稜威雄

●18歳のとき三陸・宮古市を離れて以来はや50年。工業高校時代に汽車通学した宮古-釜石駅間のJR沿線・町が壊滅的な大津波にみまわれたとの報道に衝撃を受け、実家の兄・姉、親族、親友ほか知人の安否確認の電話をすれど繋がらず。震災4日目にして内陸・盛岡に住む姪からの連絡で、実家そして兄・姉の無事を確認できました。(親友、知人との連絡はつかず)

●震災から18日目の3月28日、やっと給油できたマイカーで北茨城平潟町から一路三陸・宮古市へ。地震により凹凸がところどころに目立つ常磐道・東北道は、思いのほか渋滞混雑もなく、夕刻5時頃に宮古に到着しました。無事だった兄、姉の顔を確認してすぐ、実家の前の閉伊川の堤防に上がり、子供のころからの馴染みのところを訪ねて絶句。茫然自失とはこのようなさまを指すのでしょうか。遊び場だった川の船着き場付近の家屋は瓦礫の山、電柱の最上部には漁網、浮き玉が引っ掛かり、なんとJR線の鉄橋が流され河川敷に横たわっているではありませんか。その様は予想をはるかに超える津波の破壊力を物語るものでした。知人の安否を確認すべく市役所へ向かいました。2車線の道路は18日も経過しているのに人が歩ける程度の有様で瓦礫の山また山。市役所の玄関口近くにはモニュメントのように大きな漁船が横たわったままでした。(避難所の名簿には知人の名前見当たらず)

●宮古2日目の翌朝、小学生時代からの親友だったY君宅を訪ねてまた絶句。1階の裏口、表の玄関口は津波のため流されて壁面なし。津波は2階まで達していました。近所の家の跡片付けをしていた高齢の女性に、親友と家族の安否を尋ねたところ、親友は津波の中を泳ぎ助かったものの、奥様は流されて、翌日遺体が見つかったとのことでした。翌日の朝、避難先から息子と跡片付けに戻ってきた親友と面会できました。60年も続いてきた家業だったお菓子用紙箱づくりも廃業せざるをえないこと、地元のホテルに勤務していた次男も、ホテルの津波被害で再開の目途がたたず即解雇を言い渡されたこと、奥様の話になると「可哀そうなことをした助けることができず……」目に涙が。励ましの言葉も見つからず、何を言って励ましたのか記憶なし。

●宮古4日目、父の実家・本家のあった所は宮古漁港から1km・

海拔は3~5m程度しかない所で、津波で瓦礫の山と化し、玄関口の位置もなにもかも確認できませんでした。秋祭りで賑わった熊野神社のすぐ近くでもあり、毎年父に連れられて本家の従兄弟と相撲をとったりして遊んだその思い出の家が瓦礫に……

●宮古5日目、兄の息子の車で宮古から釜石までの被災地を訪ねました。被災状況は、TV・新聞にある通りの惨状でした。この惨状から震災前の姿に何時になったら復興できるのか、被災した人たちの生活はどうなるのかと暗澹たる思いでした。どこから手を付けていくのか、この瓦礫の山。

そのような状況下で目について心強く感じたのは、自衛隊でした。「災害派遣」の幕を車体につけて行き交う自衛隊車の列。そして瓦礫の撤去、遺体捜索、給水活動などに携わる自衛隊員。心強く感じた反面、迷彩色の暗緑色の制服に身を包み黙々と活動する姿には、TVで洪水などで人命救助にあたる様子とは異なるものを感じました。暗いイメージ「憲法違反の自衛隊」からくるものなのでしょうか。

●「憲法違反の自衛隊」と認識していながら「専守防衛」「災害派遣」の自衛隊は容認。矛盾しているような曖昧さを抱えて平和活動をしてきた自分。憲法の拡大解釈で9条を形骸化し、海外派兵同然のアメリカ支援、そして東日本大震災での自衛隊の活動。単に「憲法違反の自衛隊」として向こう側に追いやってしまっているのか?疑問を抱き悩んだ故郷宮古の5泊6日でした。

東日本大震災に寄せて



大竹 喜代子 (阿見平和の会)

地震闇 怖さにゆれるローソクは
戦火の闇の炎のように
スーパージョーに 長蛇の列は皆寡黙
余震の続く 震災四日目
春寒し 涙色した畑に出て
青菜の悲鳴聞きつつ摘あり
亡くなりし方々 連日新聞に
悲怒の墓標と決意を建てる
震災の募金活動 駅に立ち
瞳合う時 心つながる
募金箱 集うその手は ハート形
何度も心で 握手した今日

[シリーズ] わが街・わか会員

水戸市 / 小川 弘二さん (水戸西平和の会)



《福島原発事故と「安全神話」》

今から50年前、私が大学三年生の夏休みの時、東海村の動燃(動力炉核燃料開発事業団)でアルバイトをしたことがある。4フッ化ウランの還元という現場作業で、胸にフィルムバッチを着用し、作業所内でどの位被曝したか確認できるシステムが取り入れられていた。上司から動燃に就職しないかと勧誘されたが、安全性に問題があると断った経緯がある。

その後、県北の工業高校の教壇に立ち、「原子力工学一般」を数年間講義した経験があり、今回の福島原発事故を複雑な思いで考えている。原子力発電と「安全神話」は、二律背反する事象である。使用済み核燃料を最終的にどう処理するのかの結論が出ていない原子力発電推進政策をやめさせ、新しいエネルギー政策に転換させる必要がある。「安全神話」を主張してきた政治家、御用学者、官僚、財界に猛省を促したい。

新しい反核署名「核兵器全面禁止のアピール」活動と東日本大震災の義援金

守谷平和の会

守谷平和の会では、4月3日の第4回役員会で、昨年の初午まつりでのシュウマイ販売の利益7千円を、県平和委員会を通じて義援金として送ることにしました。

また、国連に向けての日本原水協がアピールする新しい反核署名の協力と行動に参加することを申し合わせました。

2011年原水爆禁止平和大行進については、7月11日(月)に守谷へ来る予定なので、昨年同様に守谷平和行進実行委員会を発足させ、内容を定めることにしています。